

AMR アライアンス・ジャパン提言 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2021～」に求められる事項

AMR アライアンス・ジャパンは、2019年7月に発表した提言に基づき、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2016-2020」に追加、変更又は強化すべき事項として以下を提案する。

● 適切な「成果指標」を設定する [（変更すべき事項）](#)

- 抗菌薬の「適正使用」を推進するための目標設定は、医療現場の現状を踏まえることが重要である。成果指標（数値目標）は、抗菌薬の過剰な使用抑制に繋がらないような適切な数値を検討すべきであり、そのためには、地域、疾患等を特定した上で、既存のデータベースもしくは医療機関に対するアンケート等を利用して設定する方法が考えられる。

● 抗菌薬事業を持続的に支える「インセンティブ」を整備する [（追加すべき事項）](#)

- 現在、産官学民の有識者で組織される、日経アジア・アフリカ感染症会議が2019年に立ち上げたAMRに関する部会において、国内で実装可能なプル型のインセンティブ・モデルが検討されている。開発促進策の検討・実施にあたっては当部会の報告書を参考にすべき。

● 抗菌薬の「安定的な供給」を担保する [（追加すべき事項）](#)

- 現在、厚生労働省医政局経済課の「医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議」において、抗菌薬を含む医薬品の供給不安に対する予防及び対応策が検討されている。具体策については当会議の報告書を参考にすべき。

● 抗菌薬の適正使用を推進できる「人材」を育成し、評価する [（強化すべき事項）](#)

- 専門的な検査（積極的な耐性菌スクリーニング検査及び遺伝子検査を含む微生物同定・感受性検査）やTDM（Therapeutic Drug Monitoring）を実施できる人材を育成し、診療報酬を含む適切な方法にて評価すべき。